

四川大地震復旧技術支援連絡会議

設立趣意(要旨): 四川地震によって被害を受けた土木構造物・建築構造物の復旧に関し、阪神淡路大震災、新潟県中越地震等のわが国の地震からの復旧・復興過程で蓄積された知見と技術にもとづき、中国側の関係機関・関係者に対し技術協力をを行う。

参加団体: 土木学会、日本建築学会、地盤工学会、日本地震工学会、日本地震学会、日本都市計画学会(6月12日)、日本地理学会(7月15日)

構成と運営: 1.連絡会議構成は各学会代表2名、及び学会の推薦による委員若干名とし、議長を互選によって決定する。
2.連絡会議は本件に関して中国への協力・支援が概ね終了したと判断された時点で解散する。
3.事務局は土木学会が担当する。

復旧技術支援連絡会議のこれまでの活動

(1)第1次支援チームの派遣

派遣期間: 5月28日～6月1日

派遣メンバー: 10名

主要な活動: 被災地の状況の視察、復旧技術検討交流会
連絡会議・四川西南交通大学間の協力覚え書の締結
今後の支援方針の協議

(2)第2次支援チームの派遣

派遣期間: 6月20日～6月25日

派遣メンバー: 11名

主要な活動: 被災地の状況の視察(復旧事例の対象とする構造物の決定)
建築構造物、道路構造物(トンネル、橋梁、盛土等)、自然斜面の復旧技術に関するワークショップの開催

第1次支援チームの活動

(1) 被災状況の視察

視察対象地域： 都江堰市および綿竹市と周辺地域

視察対象構造物： 建築構造物、住宅、歴史的建造物、道路構築物、自然斜面、ダム等

(2) 日中四川大地震災害復旧技術交流検討会

参加者： 日本側10名、中国側約100名(大学、四川省、成都市等)

日本側からの報告：日本における既往地震での復旧技術等の紹介(5件)

中国側からの報告：四川地震による被害状況等(断層、橋梁、トンネル、建築物、斜面崩壊、堰止め湖、10件)

(3) 今後の技術協力

「地震により損傷を受けた建物の診断と補修方法に関するセミナー」の開催

「地震動の推定・評価法に関するセミナー」(仮題)

「盛土・トンネル・斜面の復旧技術に関するワークショップ」の開催

西南交通大学における「地震工学特別講座」の開設

四川省における「地震工学研究センター」(仮称)設置への支援

第2次支援チームの活動

(1) 被災状況の視察と復旧事例対象構造物の選定

・被災対象地域：綿竹市・都江堰市(建築班)

都汶高速道路・青川県(土木班、道路・トンネル・盛土、自然斜面)

(2) 建築構造物の復旧に関するワークショップ(6月24日)

・参加者：日本側5名、中国側約90名(四川省建築設計院、成都市建築設計院等)

・ワークショップの内容：日本における被災建築物の復旧・復興の基本的考え方、都江堰市で被災した6階建集合住宅の復旧方法の提示および提示した方法に対する討議

(3) 道路構造物(橋梁、トンネル、盛土等) および自然斜面の復旧に関するワークショップ(6月23日)

・参加者：日本側11名、中国側100名(四川省交通局、鉄道設計第2院等)

・ワークショップの内容：被災した橋梁、トンネル、自然斜面の復旧方法の提示と討議

復旧技術支援連絡会議による今後の協力活動

(1) 地震工学特別講座(仮称)の開設(2008年9月～2009年3月)

- ・講座の受講生: 西南交通大学・四川大学等の研究者・博士課程学生、四川省・成都市等の関係者
- ・講座の内容: 断層・地震・地震動 地盤・斜面の地震に対する安全性
道路構造物の耐震性 鉄道構造物の耐震性 建築構造物の耐震性
ライフラインシステムの耐震性
地震防災性向上のための社会システム・制度

(2) 地震工学研究センターの設立と運営の協力および日中共同研究の推進

- ・研究センターの目的:
中国西域山岳地方の地理・地形・地質を考慮した土木・建築構造物の耐震性向上技術、耐震設計法、震災復旧技術を研究し、かつ地震工学分野の人材育成と国際交流を図ることを目的とする。
- ・研究センターの主要研究項目:
西域山岳地方における低耐震性建築物の震災評価・耐震補強技術
西域における都市耐震、防災減災の計画、地震リスク分析、防災システム
西域山岳地方における道路・鉄道施設の耐震評価および耐震補強技術、
西域山岳地方の斜面耐震および地盤災害防止技術
リモートセンシングによる斜面等の観測技術、マッピング技術